

キューピットバレイは上越の宝

市が「株キューピットバレイは解散へ」と市議会に報告

衝撃が走りました。10日の市議会文教経済常任委員会で市川均産業観光交流部長が、安塚区にある「株キューピットバレイ」は、今年度（2019年度）をもって解散することを明らかにしたからです。

株キューピットバレイはJホールディングス株式会社のグループ企業で、上越市の第三セクターです。安塚区須川にあるキューピットバレイスキー場や宿泊施設などの指定管理者となっていました。

市川部長など市側は、「少雪に伴う減収補填の協議をしてきたが、会社解散は予想外だった。解散はやむを得ないと受けとめている」とのべました。



雪だるま高原キューピットバレイは雪の安塚の宝であり、上越の宝です。若者、子どもたちが楽しく過ごせる、大事な場所です。この貴重な施設をみんなで守っていきましょう。

「キューピットは町民の宝です。ますますさびれていくことが悲しいです」などの声が寄せられました。

この報告を受けて委員会では、日本共産党議員団の上野議員が「いつ頃から、どんな相談があったのか。これまで対策を取れなかったのか」と質問。市川部長など市側は、「1月末に、Jホールディングスでの経営会議のなかで、少雪に伴う影響を協議してきた。株キューピットバレイとは、これまで何度か協議をしてきた。2月末で、ますます資金繰りがたいへんになったということだった」と答えました。

今後については、地元地域協議会などと協議していくとのことですが、新たな指定管理者が見つかるかどうかが当面の焦点となります。

この日の委員会での出来事を「ブログ」などで発信したところ、何人もの人から、私のところへ「キューピットバレイは、人と人との交流が生まれ、人の暖かみを感じれる場所です。これから先も長くキューピットバレイで滑れることを強く望んでいます」「安塚に光を与えてください」「キューピットは町民の宝です。ますますさびれていくことが悲しいです」などの声が寄せられました。

歴史資源を活用したまちづくりはもっと視野を広げて

新年度、上越市は、歴史資源の魅力を活かしたまちづくりを進めるため、ガイドブックの作成や寺町サミットなどに取り組みます。

11日の総務常任委員会で私は、歴史資源は市内に広く存在していることを指摘し、高田や直江津だけでなく、もっと市内全域を視野に入れて歴史資源を活用したまちづくり、地域づくりをしていくべきだと訴えました。

委員会で地名だけをあげ、詳しく話をしませんでしたでしたが、いまから400年ほど前に越後国長峰城を造り、5万石の城主となった牧野忠成の業績に注目している団体があります。越後長峰城址保存会です。

この会の人たちは、歴史に詳しい専門家を



呼んで何回も講演会を開催、城址の見学会を行ったりしながら、400年前の歴史を引き寄せ、未来へつなごうとしています。

歴史資源活用推進事業はこうした活動にも目を向け、より魅力ある事業として展開してほしいものです。



【キバナセツブンソウ】キンポウゲ科の多年草です。漢字で「黄花節分草」と書きます。通常、セツブンソウは白い花を咲かせますので、この黄花は園芸種かと思えます。市販されています。写真は浦川原区飯室にて7日、撮影しました。

はしづめ法一の活動レポート

No.1951 2020.3.15

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い 第五九八回 のぼり旗

「あひる」というのは直江津は石橋にある食堂・喫茶「あひる」のことです。お店を開店している日は、お店の東側駐車場に、「営業中」「日替わり定食」「コーヒー」の三本の旗が立っています。経営者のセイコさんは私と同郷で、吉川区尾神出身、旧源中学校の先輩です。

そのセイコさんがお店を休業することにしたのは昨年の一月です。元々、何度かのケガで足の弱かったセイコさんでしたが、どこかで「けっからんだ」らしく、歩き方は極端に弱弱しくなっていました。それだけではありません。顔色も悪く、ケガだけでなく、何か病気にかかっているのではないかとも思いました。Tさんだけでなく、多くのお客さんたちが心配しました。

でも、それから二か月半後、セイコさんは見事に復活、今年の二月の半ばにはお店を再開したのです。私が再開したお店を訪ね、食事をしたのは、さらに半月後の二月上旬のことだ。

お店の西側の駐車場に車を止め、入り口のドアをゆっくり開けて、「はい、ごめんください。ありがとございしました」と声をかけました。すると、すぐに「どうも」という声がかウンターの中から、そして入り口のそばの客席からも聞こえてきました。セイコさんの娘さんのK子さんとセイコさん本人の声です。

セイコさんの姿を確認してから、「どうだね、調子は」と尋ねると、「まあまあ」という答えでした。でも表情は明るく、休業直前の頃とは雲泥の差です。改めて「顔色、良くなったねかね」と言うと、今度は「良くなった、良くなった」という言葉が

返ってきました。さらにもう一言、「ちょっといいひとになったねかね」と言うと、セイコさんは遠慮がちにパチパチと拍手をして喜んでくれました。

カウンター席に座ってから、いつものように日替わり定食を注文しました。セイコさんが作った料理は五、六分で出来上がり、K子さんが運んでくれました。

カウンター席に運ばれた日替わり定食。この日は、ワインナー入りの炒めた卵、薄く切った大根、ニンジンにマヨネーズがかかったもの、白菜の漬物、それと思い出せませんが、あと一品、ついていました。

定食を食べながらテレビに目を向けると、新潟市でも発生した新型コロナウイルス感染症のことが報じられていました。

食べ終わる頃、再びセイコさんに声をかけました。「切り絵の西山さん、きなる」と尋ねたところ、亡くなったお父さん譲りの人懐こい、くりくりした目をして「よく来ていただいている。ここ二、三日はきなんねけど」と言われました。

その言葉を聞いて、切り絵が貼ってある方向を見ると、奥の席には知り合いのOさんの姿がありました。「あら、知らん顔して……」と言うと、Oさんはいつものようにニコニコ顔でした。

Oさんのそばまで行って、壁に掛けてある西山さんの作品を見たら、大きな手の絵が目にとまりました。西山さんのこれまでの作風とは少し違って、新鮮な感じがしました。

「あひる」での昼食は三か月ぶりでした。セイコさんの元気なしゃべりも復活していて、ホッとしました。そしてお店を出て東側の駐車場を見たとき、うれしくなりました。赤い布地に白い文字で「営業中」と書かれたのぼり旗が青空をバックに堂々とはためいていたのです。



「たね」の掃除

まだ3月ですが、先週の日曜日、「たね」（家のそばの小さな池）の掃除をしている人に出会いました。「たね」は冬、雪消しに役立ちます。夏場は水を張っておけば涼さを運んでくれることもあります。写真は8日、大島区にて撮影。

小さな
ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における 空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	3月4日(水)	3月11日(水)
上越南消防署	0.050	0.050
上越北消防署	0.040	0.047
新井消防署	0.047	0.057
頸北消防署	0.050	0.050
頸南消防署	0.060	0.050
東頸消防署	0.057	0.050
高士分遣所	0.050	0.047
名立分遣所	0.053	0.053



オオイヌノフグリと頸城三山

春の日差しを受けて、ヒメオドリコソウやタネツケバナなどの野の花があちこちに咲いています。

写真はオオイヌノフグリの空色の小さな花とバックの頸城三山が似合います。小猿屋にて9日、撮影しました。

親子で散歩



ぽかぽか陽気に誘われて歩きたくて散歩している人々を見かけました。話し声は聞こえませんが、とても楽しそうでした。